

鳴神貝塚の貝層 (2004年度調査)



約7000年前の鳴神貝塚周辺の地形と縄文遺跡



- ①⑭: 縄文時代早期～前期の土器
- ②: アカニシ
- ③⑫: シカの骨製の根バサミ
- ④: マガキ
- ⑤: シカの骨製のヘラ
- ⑥⑧: 縄文時代中期の土器
- ⑦: 縄文時代晩期の土器
- ⑨: 東海地方の特徴をもつ、縄文時代前期の土器
- ⑩: ハイガイ
- ⑪: 小玉
- ⑬: ヤマトシジミ

ACCESS

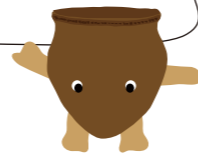
- JR和歌山駅東口:和歌山バス「紀伊風土記の丘」行き「花山」下車、徒歩5分
- 阪和自動車道:和歌山ICから南西方向へ約1km、花山交差点左折して200m

お問い合わせ先

和歌山市教育委員会 文化振興課

和歌山市七番丁23番地 TEL:073-435-1194 FAX:073-435-1294

貝塚とはむかしのひとびとが貝がらや魚の骨などの食べカスや使わなくなった道具を捨てたことによってできた遺跡のことだよ。



くに し てい し せき
国指定史跡

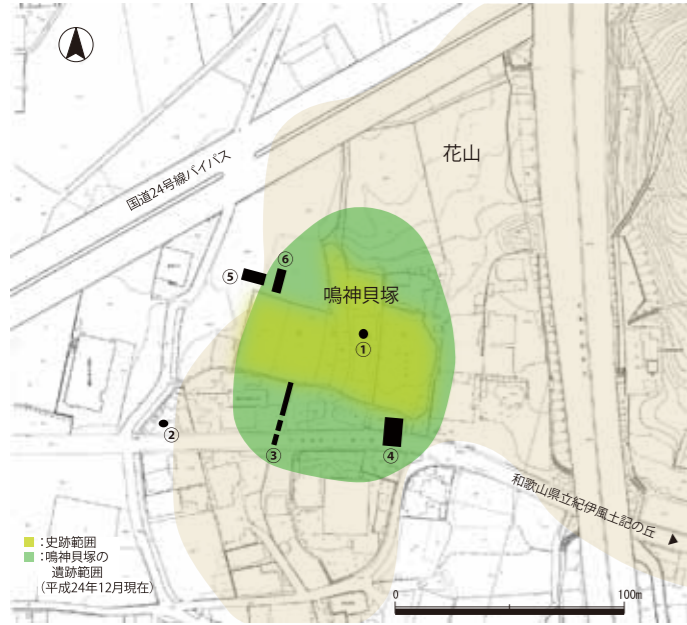
なる かみ かい づか
鳴神貝塚



和歌山市教育委員会

概要

なるかみかいつか きのかわ
鳴神貝塚は紀ノ川の左岸、和歌山平野の中央部にある花山西麓に位置する縄文時代の貝塚です。大きさは、東西約130m、南北約100m（平成24（2012）年12月現在）におよび、和歌山県内最大級の規模を誇ります。貝塚からは当時のひとびとが使った土器や石でつくった道具と一緒に彼らが食べた動物や魚の骨、貝がらもみつっています。また、そのほかにも人骨の埋葬された土坑などもみつっていることから鳴神貝塚は断続的に長い間つづいた縄文時代のムラの一部であることがわかっています。



- ①1952年サルの耳飾りをした人骨の出土地点
- ②1965年度調査地点
- ③1966年度調査地点
- ④1970年度調査地点
- ⑤2004年度調査地点（貝層確認）
- ⑥2004年度調査地点（縄文時代晩期の墓坑を確認）

鳴神貝塚に埋葬されたひとびと

なるかみかいつか まいそう
鳴神貝塚の中心部付近からは手足を伸ばした状態で埋葬された女性の人骨がみつっています。上アゴの犬歯2本を抜き、サルの腕の骨でつくった耳飾りをしていたことから、シャーマンであった可能性が考えられます。

また、2004年度の調査では女性と子供と一緒に埋葬された墓坑（土坑墓）もみつっています。この年の調査で見つかった人骨は足を折り曲げた状態で土坑に埋葬されていました。



1952年に発見されたサルの骨の耳飾りをした女性の人骨（白い紙の上にあるのが耳飾り）
（羯磨正信氏撮影）

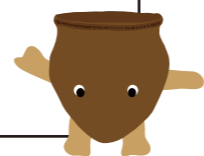


2004年度調査で見つかった墓坑に埋葬された女性（復元）



豆知識

シャーマンとは、神がかりをして、予言や治療をする特別な力を持った人のことだよ。だから、ムラのマツリするときには大事な役わりをする特別な存在だったんだ。古墳時代の卑弥呼が有名だよ。



鳴神ムラのくらし

かいづか に た いしざら
貝塚からは煮炊きをした土器や食べ物を盛った土器以外にも木の実をすりつぶすのに使った石皿やすりいし せきぞく さつき
磨石、矢じり（石鏃）、ナイフ（削器）などの石でつくった道具やシカの骨やエイの尾びれでつくった道具もみつっています。また、貝塚からは当時のひとびとが食べたハマグリやヤマトシジミ、マガキなどの貝がらや、タイやアジ、エイなどの魚の骨、シカやイノシシなどの動物の骨もみつっています。



左上：アカニシ 右上：マガキ
左中：ハマグリ 左下：ヤマトシジミ
右下：ハイガイ

今日のごはんは木の実のパンと貝のスープ！！
スープの具は何にしよう？



磨石



左：ナイフ 中央：石斧 右：やじり

左上：イノシシ 左下：サル 右上：シカ 右下：鳥類



左：ヘラ 右上：根バサミ 右下：ヤス



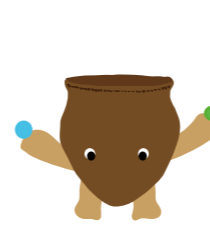
いしざら
石皿



縄文時代晩期の土器（深鉢）

鳴神ムラの交流

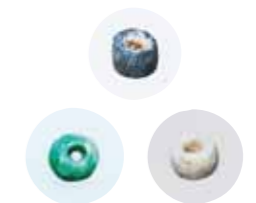
貝塚からは、サルの骨製の耳飾り以外にもヒスイ製や滑石製の小玉もみつっています。とくに、ヒスイは新潟県糸魚川産のとても貴重なものでした。矢じりやナイフも遠方から運ばれてきたサヌカイトという石を使ってつくられています。また、土器のなかには東海地方の特徴をもつものもあります。このように、鳴神ムラのひとびとは様々な形ではば広い交流をもっていたと考えられます。



大事な人のお墓に宝物と一緒に埋めよう・・・



サルの骨製の耳飾り



上・右下：小玉
左下：ヒスイ製小玉